

1. 会議名 令和7年度 第6回 印西市環境推進会議（市民会議）
 2. 日時 令和8年1月16日（金）9：30～11：30
 3. 場所 市役所 会議棟 204会議室
 4. 出席委員：小山会長、白川副会長、片桐委員、久保菌委員、橋本委員、福井委員
村形委員、渡辺委員
事務局：富澤環境保全課長、増田保全係長、浅井主査補、及川主任主事、本庄主事
エヌエス環境株式会社 江頭、増山、飯塚、永井、佐々木
 5. 傍聴者 0名
 6. 配布資料
 - ・会議次第
 - ・令和7年度版印西市環境白書（案）
 - ・印西市自然環境調査中間報告
 7. 内容
 - (1) 開会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 議事
 - ①令和6年度の環境施策の進捗状況について
—令和6年度の環境施策の進捗状況について事務局より説明—
- 会長：ただいまの説明について、ご意見ご質問などがあればお願いします。
- 委員：38ページの温室効果ガス排出量について、2021年度に急激に増えている理由が業務その他部門で、特にデータセンターからの排出が増えているという話があった。このデータセンターというのは、電気の使用量から排出量を計算しているということか。
- 事務局：ご認識の通りである。
- 委員：そうすると、これからさらにデータセンターができると、排出量が確実に増えてしまう。
- 事務局：特定事業所の温室効果ガス排出量については、2021年度よりウェブで公表されている。データセンター関連について、今資料に掲載している2021年度は294.5千t-CO₂であるが、2022年度は325.6千t-CO₂、2023年度は450.3千t-CO₂で、来年度以降発行する環境白書でも、間違いなく数値は増えていく状況である。
- 委員：このような点を理由にデータセンターの進出を止めることはできないのか。
- 委員：データセンターの件は、あちこちで問題になっている。やむを得ないということでもう承認されたわけである。
- 委員：今はおそらく県の方へ話が行っている。
- 委員：まだ県の方でどうなるか分からないが、県としては承認せざるを得ないだろう。

緑化等の条件をつけたという話を聞いたが、その後の推移についても何も情報は聞いていない。それはまだ分かっていないということか。これは駅前のデータセンターの件についてである。

事務局：駅前のデータセンターに関しては、環境保全課の方でも、今お話しされたこと以上の情報は把握していない。

会長：今の委員の意見は要するに、2030年問題、2050年問題についてである。印西市でもいんざいカーボンニュートラル・チャレンジ2050を策定した。その観点からいっても、増え続ける電力使用量にどのような対策をとるのか、庁内で検討した方がいいのではないかという意見である。

委員：その通りである。

事務局：データセンターのニーズ増加に伴い、印西市でも建設が増えている状況である。皆さんがおっしゃるような、生活環境への影響を懸念する声があることも当然認識はしている。市長からも、今後まちづくりのルールについて検討していくといった発言があった。市としても、データセンター等の新しい施設について、国の方で環境に関する基準等を設けていただけるよう要望していきたいと考えており、検討を進めている。

会長：データセンターがそれだけの電力を使うのであれば、どのように対策を進めていくか、そのためにも強く要望を出していただきたいと思う。

委員：印西市としても2050年のカーボンニュートラルを宣言した。このデータセンターの温室効果ガス排出量の急激な増加は、印西市のカーボンニュートラルの取組に直接影響してくるだろう。データセンターで使用している電気は印西市で作った電気ではないから、印西市の温室効果ガス排出量にはカウントされないという話ではないだろう。

事務局：ご認識の通りである。印西市に所在するデータセンター分は、業務その他部門の排出量としてカウントされている。

委員：どう考えても印西市のカーボンニュートラルは実現しそうもない気がする。

会長：この問題については、この間市長と話をした際、カーボンニュートラル実現のために企業に対しても強い指導を行ってほしいと要望を出した。その点を真剣に考えていただきたいということではいかがか。

事務局：データセンター等の企業の方でも、カーボンニュートラルの意識を持っていただいて取り組んでいただけるよう、行政側からも強く要請をしていきたい。

委員：強い指導をお願いしたい。

委員：再生可能エネルギーの利用について、太陽光発電を今後も推進していくとなっているが、他の地域では、大規模な太陽光発電等が非常に問題になっている。印西市においては、太陽光発電で問題が起きたことや、苦情が寄せられたということはないのか。

事務局：印西市にも市街化調整区域を中心に大規模な太陽光発電施設が整備されているのは事実である。苦情が寄せられた事例はないが、周辺住民は景観等について心配していることと思う。国の方でも、大規模太陽光の設置については規制が進んでいると報道がある。市としても今後の方針を検討していきたいと考えている。

委員：今の評価項目に PFAS が不在。印西市として測定を行ってはいないのか。

事務局：PFAS については、昨年から市内 5 箇所（箇所）の河川の状況を調査している。うち 4 箇所については基準値以下となっている。1 箇所、基準値 50ng/L に対して、64ng/L となっているところがある。数値は昨年から同じくらいで、大きな増減はない状況である。PFAS の問題は非常に注目を集めているため、引き続き調査を進めていきたい。

委員：基準値を超過している理由までは分かっていないのか。

事務局：原因の特定までは至っていない。PFAS の調査は、鎌ヶ谷、柏の方でも行っており、鎌ヶ谷の方では何万ナノグラムという数値も出ている。これに直接の因果関係があるとは言い切れないが、印西市においては、基準値は若干超えているものの、それほど大きな量は検出されていない状況である。今のところは、調査を継続していければと考えている。

委員：16 ページの土地利用の変化から、印西市では宅地が増え、緑地が減っていると思われるが、市の取組は、主に維持管理で市民と連携して山林の保全に努めるといった記載に留まっている。これも大事だとは思うが、元々の緑地を減らさないようにする取組が重要である。農地の保全は挙げられているが、他の山林や貴重な緑について、今あるものがなくならないようなように保全をしていくのか。例えば特別緑地保全地区等の指定等、都市計画において緑地を保全していくなど、市からの積極的な取組がもう少し盛り込まれてほしい。環境保全課の範疇ではないかもしれないが、都市整備の部署に対してどう働きかけを行っていくのか、お聞きしたい。また、25・28 ページに、開発事業者に対して「適正な土地利用を図るよう誘導・指導していきます」や「開發行爲等事前協議において、雨水貯留施設や雨水浸透施設の設置について協力を依頼しました」とあるが、具体的にどのような形で協力依頼等をしているのか。この基準を満たさないと開発の許可が下りない等の具体的な基準があるのか。他にも、開発にあたっての植栽・緑地整備に関しては、平面図等の書類を提出するようになってきていると思うが、一体どのような視点で配慮がされていると判断しているのか。具体的なルールや基準があればお聞きしたい。

事務局：特別緑地保全地区等の指定については、現時点では具体的な議論にまでは至っていないが、今後グリーンインフラ推進の取組の中で、どのようなことができるか、引き続き都市整備課とともに検討したいと考える。

委員：具体的な連携の形はどのようなものか。

事務局：グリーンインフラの庁内検討会を立ち上げており、環境保全課が主体となって、都市整備課や都市計画課などと一緒に検討を進めているところである。

委員：条例制定の話まで及んでいるのか。

事務局：そこまで具体的な話は出ていない。また、開発行為については指導要綱があり、その指導要綱に基づいて、項目ごとに開発事業者と担当課で事前協議を行っている。その協議において、事業者に対して、例えば敷地内の5%以上の緑地を確保してくださいなどのお願いを行っている。指導要綱のため、あくまでお願いという形で協議をしている。

委員：雨水浸透に関してはどうなのか。

事務局：開発事業指導要綱に基づいて指導を行っている。

委員：指導要綱にはあまり具体的な話が書かれていない。雨水浸透・雨水涵養に努めると記載されているが、どのような状態が「努めている」状態であると判断されているのか。

事務局：都市計画課等が担当している部分のため環境保全課では詳細までは把握していない。

委員：基準がないのではないかと不安になる。どのような状態が、企業が「努めている」状態であるのかというラインが引かれていない状態なのではないかと懸念を持っている。もし明確な基準がないのなら、「協力を依頼しました」や「指導を行っています」という文言自体があまり意味のないものになってしまうため、ぜひ具体的な基準の整備に努めていただければと思う。

事務局：雨水の排出量については計算基準がある。また、調整区域での開発においては、雨水の流末先として利用できるのは道路の側溝しかないことが多い。その接続の際に、雨水の流出をできるだけ少なく、ゼロに近づけてオーバーフロー分だけ道路に流すよう、具体的な数値を元にした協議を担当課の方で行っている。

委員：それは市独自の基準か、県の定める計算方法なのか。

事務局：そこまでは我々の課では分からない。

会長：指導の結果どうなったかというところまで把握しているのか。

事務局：各担当課の方では把握している。

委員：理解した。

会長：5ページについて、遊休農地だけでなく耕地面積の変化も書いていただけるといいと思う。農地転用が行われる場合もあるため。また、13ページの適応の取組の例について、おそらく環境省の資料等を基に記載しているのだろうが、印西市でも ICNC2050 を策定したため、印西市の適応の取組の例を出せるようになったらいいと思う。私たちの具体的な生活に基づいた取組の例ということで。同じことが並ぶのかもしれないが、やはり出していただきたいと思う。また、18ページで、農振農用地面積が減少していることが少々心配である。農業振興地域は本来

あまり変えられないのではなかったか。何が起きているのか。

事務局：地権者などの事情に応じて、市の協議会で審議し、その結果やむを得ないと判断されたものは除外されている。

会長：理解した。また、28ページに「簡易水質調査を実施した」とあるが、その実施結果について実際はどうか。

事務局：こちらに関しては資料発送後に記載の誤りが判明したため、訂正させていただく。昨年度は簡易水質調査を実施していないためこの記載は削除予定である。

会長：理解した。それから42ページ、気候変動の影響への適応について、取り組んでいる事項については書いてあるが、宅地において緑を増やす取組も重要である。今、事業者に対しては緑地確保の指導が行われているが、住宅地等においても緑を増やすことを進めていかないといけない。ヒートアイランド現象もどんどん悪化していくと思う。緑を増やす取組についてしっかり書いていただきたい。

事務局：環境保全課の個別の取組としては、グリーンカーテンの普及を推進している。

委員：4ページの環境指標の評価の見方についてお聞きしたい。数値が悪化している項目でも星が1つもらえるのは違和感がある。悪化している項目は黒星にするとか、三角マークを付けるとか、表し方の検討が必要だと思う。また、46ページに記載がある「環境に関する出前講座」について、我々が3年続けているエコカレンダーの取組も書いてほしい。「など」の中にも含まれているのかもしれないが。

事務局：エコカレンダーについては掲載させていただく。環境指標の評価については、第3次印西市環境基本計画の中で定めた基準に基づき行っている。次回の環境基本計画の見直しの際には、変更を検討したい。

委員：理解した。

②印西市自然環境調査について

—印西市自然環境調査中間報告について事務局より説明—

会長：ただいまの説明について、ご意見ご質問などがあればお願いします。

委員：これは、例えば私が珍しい昆虫を発見して写真を撮って報告したら、それもカウントされるのか。

事務局：そのような情報はいただけるならいただきたいが、調査精度を揃えることで変化を追っていきたいと考えているため、この調査結果には入れず、別の提供資料としてまとめる形になる。

会長：モニタリングは、人数や時間といった条件が決まっている。

事務局：ご認識の通りである。努力量によって結果は大きく変わってしまう。

委員：資料で初確認と書かれている動植物の中に、普段から見かけるものもある。

会長：その通り、この調査では初確認であっても、我々市民は以前から目にしているも

のがある。また、市民団体による調査結果もある。そのような調査結果もあわせて、印西市で減少している種、見られなくなった種、種がいなくなった地区等を分かるようにしないといけないと思う。難しいとは思いますが、いずれ着手しなければ。例えばトウキョウダルマガエルは、私の肌感覚ではヌマガエルが増えたことによって全く見られなくなっている。そのような変化を見ていくことが、今後の環境をどう維持していくか、あるいは作っていくかに必要なのではないかという気がする。水辺の環境と草地の環境でそれぞれ異なる生き物がいるという話もあったが、例えばトラフトンボのように、水辺の環境で産卵するが草地の環境で育つものもいる。ニホンアカガエルも水辺の環境と雑木林の両方がないと生きていけない。両方の環境を行き来している生き物がいるので、総合的に見ていかないと。「この種がまだいるから大丈夫」「この種が増えたから大丈夫」ということではないと思う。その点について今後、情報を整理してほしい。

委員：今後の方針について提案が記載されているが、これは実施が決定しているのか。

事務局：次期環境基本計画の策定時に、市民会議委員や環境審議会委員の皆様にご意見を聞きながら検討していく予定である。前回の自然環境調査の結果も踏まえ、どのような指標にするか検討したい。

委員：中間報告としては今の状態だが、最終報告でその情報が盛り込まれるというわけではないのか。

事務局：最終報告の形式も現在検討中である。より良いまとめ方をしていきたい。資料に記載したのは、次期環境基本計画における指標の見直しについての案で、そこらはまた策定時に活かしていきたい。また意見をお聞きする機会があると思うので、そこらでも意見を仰っていただければと思う。

委員：21ページの「種（群）単位での変化を追う」とはどういうことか。

事務局：今までの指標は「発見された種数」であった。今回、国立環境研究所にも相談しながら、どのように調査結果をまとめていくべきか検討している。その中で、「草原」「樹林」等の区分をした方が良いのではないかとといった点や、経年変化の見方等、アドバイスをいただきながら今回の調査を進めている。専門的にはなってしまうが、意味のあるまとめ方をしていきたいと考えている。

委員：そうではなく、言葉の意味についてお聞きしたい。

事務局：17ページのグラフでは種数の変化を見ている。2011年が計24種、2025年は計23種であり、総数だけ見ると1種減少しているが、内訳を見ると、外来生物の増加も読み取れる。在来種についても、ホトケドジョウが新しく増えたが、カマツカという魚は減っている等の変化がある。数字だけでは読み取れない種の変化を見ていくことを意味している。

委員：変化の中身を追っていくということか。

事務局：ご認識の通りである。減ってしまった魚、いなくなってしまった魚が、どのよう

な環境に生息している種なのかを詳しく見ていくと、「その環境がなくなってしまったから減っている」といった、環境自体の評価に繋がる。

委員：それは全てに対して行うのではなく、指標種を設定して、その種について詳しく追っていくということか。

事務局：ご認識の通りである。

委員：理解した。また、11 ページのカヤネズミの巣について、この写真を見ただけで、カヤネズミの巣だと分かるものなのか。

会長：分かる。

委員：持ち主がいなくても、巣の形を見ただけで判別が可能なのか。

会長：可能である。

委員：カエルの増加は私も感じている。毎朝田んぼを歩いているが、3～4年前頃から、春だけでなく秋もカエルが多く見られる。地球温暖化の影響かと思っていたが、それ以外に、ヘビが見られなくなった。家の近辺でもそうである。今年は全く見られないし道路にもいない。ヘビによる捕食が減ったことも、カエルの増加の要因かもしれないと思った。皆さんが調査するのもいいが、そこで生活している人が見て感じるものを聞くことも大事にしていなければならないと思う。

委員：20 ページの表について、確認した種数が示されているが、その中身を知りたい。例えば哺乳類の中に、ノウサギは含まれているか。最近ほとんど見ない。

事務局：ノウサギは確認している。なお、最終報告には、詳細のリストを示す予定である。例えば植物は800種以上確認されているが、それらも全て一覧化する。今回は中間発表のため、簡易的にまとめさせていただいた。

委員：私は平成元年に印西に来たが、その頃はたくさん小さいリスを見かけた。最近はほとんど見ない。

会長：キネズミと呼ばれていたリスである。タイワンリスではなく。

委員：木を登ったりおりたりする姿を見てかわいいと思った。いいところに来たなど思っていた。しかし今はほとんど見ない。

事務局：この調査も長年実施しているが、リスは一回も確認したことがないかもしれない。

会長：タイワンリスも見ないのでそのせいで滅びたわけではないと思う。まとめに「いなくなったもの」「どこで何がいなくなったか」まで記載してほしい。今回の調査で見つからなかった種として。次回の調査時には経年変化で見つかるかもしれないし、はたまた、本当にいなくなったのかもしれない。増えたものがあるのは良いことだが、いなくなりそうなものも含めて、減ったものというのもカテゴリーの中に入れてほしい。市民団体の調査については、どのようにすればいいのか私も考えている。

③環境基本計画の推進に係る取組の検討について

—環境基本計画の推進に係る取組の検討（グループワーク）—

(4) その他

(5) 閉会

以上

令和7年度第6回印西市環境推進会議（市民会議）の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和8年2月18日

印西市環境推進会議（市民会議） 委 員：片桐 顕二

印西市環境推進会議（市民会議） 委 員：村形 彰治